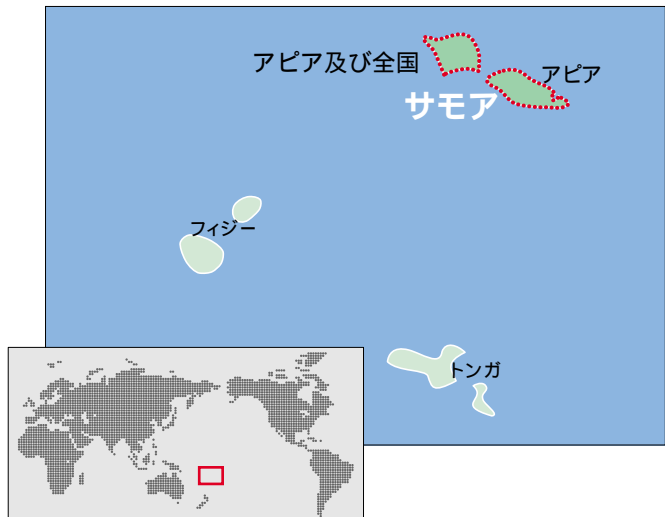


# フィラリア・ コントロールへの協力

## 実施地域

アピア及び全国



## 1. プロジェクト要請の背景

フィラリアはサモアの風土病の1つとされており、1964年のWHO / UNICEFの調査では検出率が21%に達していた。

このような背景のもと、サモアでは、WHOの支援によってフィラリア撲滅のための活動が推進されており、我が国もWHOと協調して、1976年度より青年海外協力隊派遣を中心とした技術協力を継続的に実施してきた。フィラリア撲滅の最終フェーズは1992年に開始され、JICAとWHOによる技術的、財政的支援により、活動の強化と治療対策が実施されている。

## 2. プロジェクトの概要

### (1) 協力期間

1976年度～1998年度

### (2) 援助形態

青年海外協力隊、シニア海外ボランティア、研修員受入

### (3) 相手側実施機関

保健省

### (4) 協力の内容

#### 1) 上位目標

サモアにおいて、フィラリア撲滅が推進される。

#### 2) プロジェクト目標

保健省(フィラリアコントロール・ユニット)のフィラリア対策に関する技術水準が向上する。

#### 3) 成果

- a) カウンターパートが基礎技術(衛生観念、機材操作技術、基礎実験技術など)を習得する。
- b) 住民を対象とした集団血液検査を実施する。
- c) 抗フィラリア剤投与キャンペーンを実施する。

## 4) 投入

### 日本側

- 青年海外協力隊員 13名
- シニア海外ボランティア 1名
- 本邦研修受入 2名
- 機材供与(実験機材等)

### サモア側

- カウンターパート 7名
- 保健事務所

## 3. 調査団構成

JICA サモア事務所

(WHO Scientist / Malariologist 一盛和代博士に委託)

## 4. 調査団派遣期間(調査実施時期)

1998年11月6日～1998年11月21日

## 5. 評価結果

### (1) 効率性

本協力では、青年海外協力隊員の派遣を中心に、シニア海外ボランティアの派遣、保健省スタッフの日本での研修、機材供与を組み合わせることにより、効率的に技術移転が図られた。

本プロジェクトはWHOのフィラリア撲滅計画の一環をなすものであり、他のドナーとの援助協調の観点からも、全体的に、効率性は高かった。

### (2) 目標達成度

本協力を通じ、カウンターパートの衛生観念や、機材操作や基礎実験の技術などの基礎技術が大きく向上した。また、1993～1995年の3年間にサモア人口の

80%にクエン酸ジエチルカルバマジン(DEC)剤を投与し、続いて1996～1997年にはDECとイベルメクチン(IVM)の複合投与を実施するなど、フィラリア対策は適切に実施されてきており、本協力の目標達成度は高いと評価できる。

### (3) 効果

フィラリアの検出率は、1964年の21%から、WHOの支援による薬の大量配布によって、青年海外協力隊派遣を開始した1977年2月には、既に2%程度に低下していた。その後、1980年ころに増加し5%程度で推移した後、再度低下して1998年には1.1%まで減少している。このように、我が国の協力とフィラリアの検出率の低下は必ずしも一致していないが、本協力による保健省スタッフの技術水準向上を通じ、フィラリア撲滅の射程圏内まで安定的に導いたことは高く評価できる。

また本事業によって、フィラリアが蚊に媒介されることや、感染防止に関する情報が国民に普及し、フィラリア予防のための環境美化運動が進展した。その結果、同じく蚊で媒介されるデング熱の予防も容易になった。こうした総合的環境保健活動を通じて、寄生虫、疥癬、貧血症なども減少すると期待される。

### (4) 計画の妥当性

リンパ腺性フィラリアの撲滅はWHOが取り組む世界的課題であり、サモア政府もこれに積極的に対応する方針であることから、本協力で移転された技術の有効性は高い。

### (5) 自立発展性

本協力によって、保健省スタッフの技術水準は、今後独自にフィラリア撲滅を推進していくことが可能なレベルにまで達している。また、WHOによる簡易検査キットの導入のめどもたっており、当面はWHOの支援を受けながら、サモア側は自力でフィラリア撲滅計画を推進していくことができると思われる。

## 6. 教訓・提言

### (1) 教訓

青年海外協力隊やシニア海外ボランティアは、1名あたりの派遣期間は2年から3年であるが、継続的に派遣しつづけたことが、フィラリア撲滅という長期的目標の達成に貢献した。比較的小さな投入を長期間継続的に実施するという協力形態も、今後積極的に検討すべきである。

サモアでは、WHOが保健省に深くかかわり、政策でも影響力を持っている。本協力ではWHOと協調することにより、相互補完的な協力を行うことができた。WHOをはじめ国際機関との援助協調も、今後積極的に推進していくべきである。